

照井さんは、大学卒業後、留萌市の保育所で勤務し、その後、平成30年から猿払村で勤務しています。今年で保育士生活19年目を迎えました。

保育士を目指したきっかけ

4つ下の妹が保育所に入所していた時に、母の付き添いでよくお迎えに行っていました。その時に、保育所の先生がとても楽しそうに子どもたちと遊んでいる様子を見て、自分も将来、同じように、子どもと関わる仕事がしたいと思ったことがきっかけです。

保育士でよかったと感じる瞬間

毎日子どもたちと触れ合えて幸せな時間を過ごすことができているのですが、卒園児が保育所に会いに来てくれた時は特にうれしいです。昔の話をしながら、子どもたちの成長を感じるとともに、自分

のしてきたことが子どもたちの記憶に残り、子どもたちの成長の基礎になっているのだなと感じた時は保育士をやっていたよかったと感じました。

女性が多い職場での不安

男性保育士が一人だけだったことも過去にありましたが、男性の園長先生やバスの運転手さんなどとコミュニケーションをよくとっていたので、男性が少なくても心細いなど感じたことはあまりなかったです。現在は、職場に男性保育士がいるので男同士でよく話をし、楽しく仕事ができています。

男性保育士がいることのメリット

家庭にお父さん、お母さんがいるように、保育所にも男の先生、女の先生がいることで、より家庭に近い環境で保育を行うことができ、子どもたちも安心して生活

することができているのではないかなと感じています。

目指す保育士像

得意なことが多い子や苦手なことが多い子、時にはハンディキャップを抱える子など世の中にはたくさんの子どもたちがいますが、どんな子どもが来ても、一人一人を受け入れ、生活できる環境を作れる保育士を目指していきたいです。

鬼志別保育所保育士

照井 真幸さん

女だから、男だから、ではなく、

6月23日～29日は「男女共同参画強化週間」です

「私だから」の時代へ。

男女差別をなくすため「保健婦から保健師」「保母から保育士」等、職業の名称が変わるなど「男性の職業、女性の職業」といったイメージのあった職業は、性別関係なく進出しやすくなりました。男女関係なく活躍している2名にインタビューしました。

猿払村女性消防団は平成8年10月1日に結成し、現在は8名で活動しています。小松さんは、結成当初から団員として活躍し、平成31年度から部長を務めています。

女性消防団の活動内容

主に独居老人の自宅に訪問し、ストーブやガスの点検をしています。その際は、困ったことはないかなどの話もして、相談相手になっ

ています。

また、毎年9月に消防署猿払支署で開催している「救急フェスタ」にチャリティバザーやヨーヨーすくい、焼き鳥などの出店をするなどお手伝いをしています。

他には、毎年開催される女性消防団全国大会が、10年に1回札幌開催になるので、その時は参加しています。2017年は広島で開催されましたが、そこにも参加してきました。大会では、活動の体験談やポンプ操作の演習、それぞれの地区による出し物などが行われます。消防団に入っていないければ聞くことのできない、災害救助などの生の声を聞いてとても新鮮でした。

消防団に入ってよかったこと

入団した当初、正直乗り気ではなかったけれど、やってみると楽しいことが多く、普段できないよ

うな体験ができました。

また、心肺蘇生や応急処置などの講習を定期的を受けているので、日常でも役立つことがあってよかったです。

どんな活動をしていきたいか

女性消防団の結成後すぐに、津波警報が出て何時間も避難することがありました。その時、男性の消防団員が物資を配る姿を見て、これなら女性でもできるのではないかと思います。そのできごとがあつてからずっと、もしも災害が起きた際には、何か役に立つことをしていきたいと思っています。

猿払村女性消防団部長

小松 奈津子さん

女性消防団員
のみなさん

